

鎌倉市大町地区におけるコミュニティ支援を意図したワークショップの実践と課題
その1 防災マップ作成支援と移動型携帯情報端末を用いた防災空間情報の提供

防災まちづくり 住民参加 ワークショップ
マップ

正会員 ○石坂 佳美 * 同 佐々木 一晋 ****
同 齋藤 千夏 ** 同 高橋 永 *
同 山家 京子 ***

1. はじめに

神奈川県都市計画研究室（以下、当研究室）では、鎌倉市大町自治連合地区（以下、大町地区）において、住民間のコミュニティ活性化及び町ぐるみでの地域ネットワーク生成を目的としたコミュニティマップ作成プロジェクトを行ってきた。

鎌倉市の第3次鎌倉市総合計画第2基本計画では、コミュニティ活動の活性化に向けた支援を行うこととされている。大町地区はモデル事業の1つとして、2カ年にわたり地域の課題とその解決策の協議等の取り組みを行う事となった。モデル事業の実施に向けた意見交換の中で、大町地区の地形的特徴から、「防災」に焦点をあてたコミュニティマップの作成に取り組むこととなった。マップの作成は、大町自治連合会、近隣中学校のPTA関係者、公募市民によるまちづくりサポーター、鎌倉市職員が主体となり、当研究室が協力支援する形で進めた。

本稿では2008年度、大町地区において行ってきたプロジェクトの活動を報告し、そこでの成果・課題についての考察を行う。

2. 鎌倉市大町地区の特性と問題点

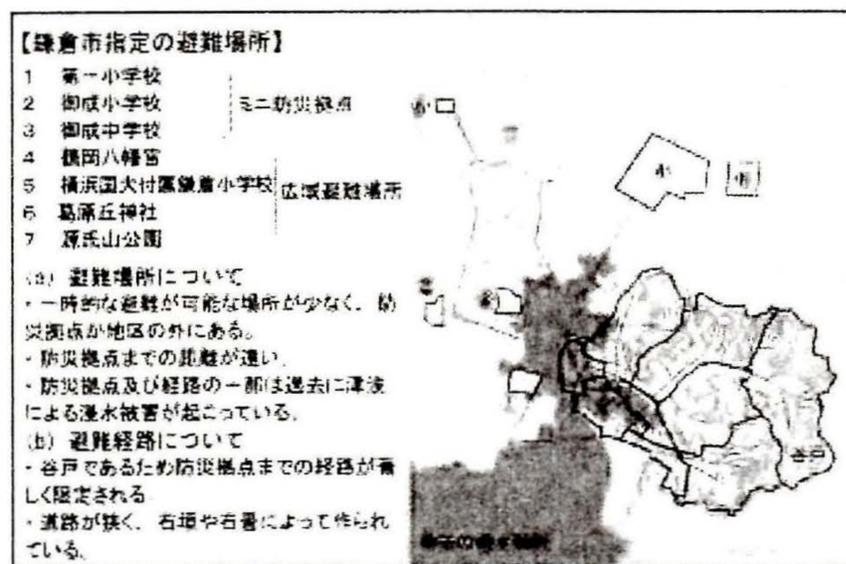


図1：大町地区と避難場所の地理的關係

大町地区は9つの自治会で構成されている。また、古都法が規定されていることにより地区の多くが谷戸に埋もれ、災害時には図1に示すような様々な問題を抱えている。

3. ワークショップの流れ

発足会を含め6回のワークショップ（以下WS）を行い、大町地区住民との交流・意見交換を図りながら、半年間以下のように取り組みを進めてきた。（表1、図2参照）

第1回WS	参加メンバーの顔合わせを行い、各自が感じる大町の課題点や、良い点をあげ、今後のコミュニティマップに関する方針を引き出していった。
第2回WS	課題点や良い点を分類ごとにまとめ、そこで今年は防災に焦点におき活動することとなった。
第3回WS	防災マップとは何かを説明した上で、拠点や装置、危険箇所などをあげ、紙面上の防災マップを各自治会ごとに作成した。
第4回WS	防災マップの中間段階のチェック、その修正を行った。また、実際にまちに出て作成中の防災マップと照らし合わせながら、大町の実況について見て回った。
第5回WS	自治会ごとの地域カルテの作成とボードゲームを行った。ボードゲームについてはその2で発表を行うため省略。
第6回WS	住民の方を対象としたWSを実施した。VuTOムービーの放映、VuTOのまち歩き体験、防災マップの展示、ボードゲーム体験を行った。ムービーの放映ではVuTOの説明や防災マップの記号との照らし合わせなどを中心として流した。

表1：ワークショップ概要

4. 防災マップ

防災マップ作成は、各自治会ごとに分かれ住民メンバーに市職員1名、学生1〜2名が付き、学生が進行役となり意見を引き出す形式で作業を進めていった。防災マップ作成の流れは図2で示す。

掲載記号は、第3回WSの前に当研究室と市職員によって大まかに決め、第4回WS後住民メンバーからアンケートを取り、最終決定を行った。（表2参照）避難経路に関しては第一小学校に避難する場合を想定し、また一時避難が可能な場所は、広さや周辺の状況等を考慮し決めている。

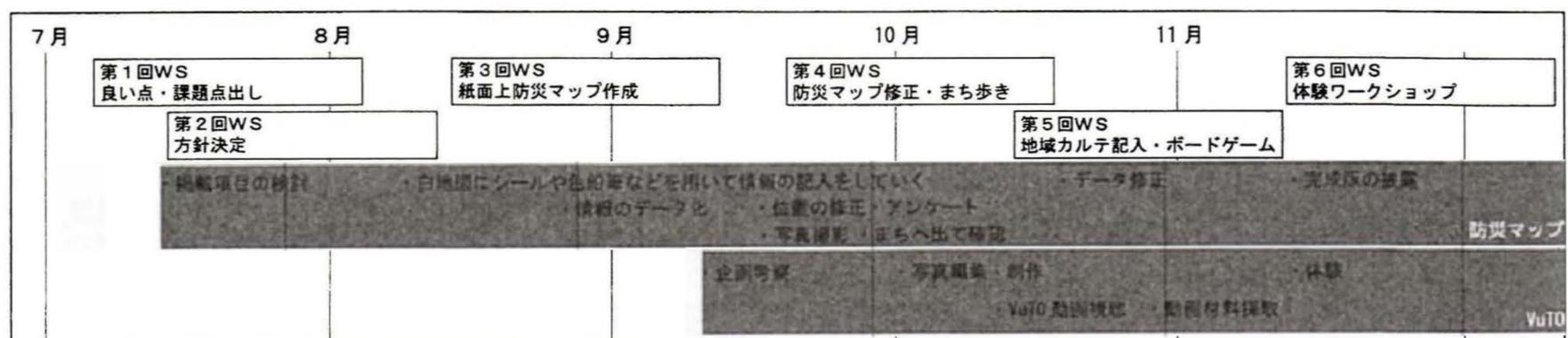


図2：プロジェクトの流れ

The Practices and Problems of the Workshops for Community Support in Omachi, Kamakura-shi Part1. The Support for Making Disaster Prevention Maps and the Offer of the Space Information of Disaster Prevention Using PDA

ISHIZAKA Yoshimi, SAITO Chinatsu, YAMAGA Kyoko, SASAKI Isshin, TAKAHASHI Haruka

記号種類	概要	記号内容
円記号		集合場所、一時避難が可能な場所
赤色記号	災害時危険なもの	水害、トンネル、橋
緑色記号	災害時頼りとなるもの	病院、居宅介護施設、商店、防犯連絡所、駐車場、寺、神社、スピーカー、消火器、AED、自治会館、防災倉庫、幼稚園、掲示板
青色記号	水関係の頼りとなるもの	消火栓、井戸（災害時協力用）、井戸（使用可能）、防水槽、給水拠点
線記号		急傾斜地崩壊危険区域、4m以下の道路、ブロック塀、崖、避難経路

表2：掲載記号概要

また今回防災マップの作成を含め、実際の状況を表したものの作成を共に行った。これは記号と実際の状況とを照らし合わせるだけでなく、写真を撮るという作業により現状を確認し、より正確で多くの情報を共有することを目的としている。完成した成果品は以下のとおりである。(図3、図4参照)

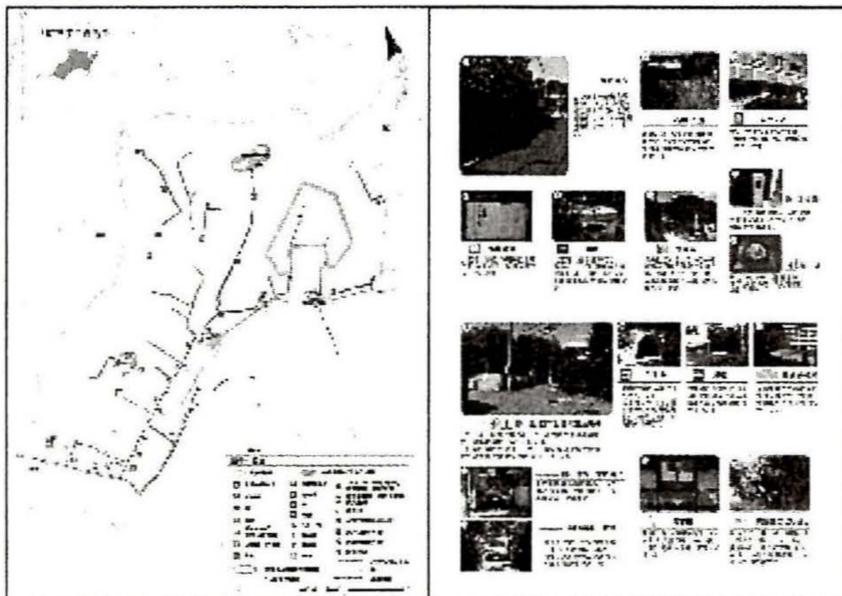


図3：防災マップ（大町三丁目） 図4：実際の状況（大町三丁目）

5. VuTO

今回のプロジェクトの中で、VuTOと呼ぶ防災情報の体感企画の提案を行った。

5-1. VuTOとは

ピンポン!	画面左側に着目ください	地震や雷のときは橋が崩落する可能性があります
また、川沿いや窪地になっている場所は浸水の危険があります	ごおおおお!!! (氾濫の音)	表3：VuTO映像 (水害)

VuToはVulnerable Tracking project in Omachiの略で、大町の傷つきやすい箇所に加え、それらから大町を

* 神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻博士前期課程
 ** フリー
 *** 神奈川大学工学部建築学科 教授・博(工)
 **** 神奈川大学工学部建築学科 特別助手・修(工)

* Graduate Student, Graduate School of Eng., Kanagawa Univ.
 ** Free
 *** Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Kanagawa University, Dr. Eng.
 **** Research associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Kanagawa Univ., Mr. Eng.

守るものを紡いでいくといった意味である。災害発生時に被害が予想される場所、災害時に必要となる避難場所や消火器のような装置を「音」と「映像」によって紹介する企画である。(表3参照) また、これを利用する事により実際にまちを歩きながら防災マップに取り上げられている様々なものを確認するというのも目的としてあげられる。

5-2. VuTO 体験ワークショップ概要

第6回WSにて、大町五丁目、ふれあい広場周辺を対象とし、道沿いにある防災マップに記載されている6つの箇所でVuTOの体験を行った。この際数字の書いた看板を

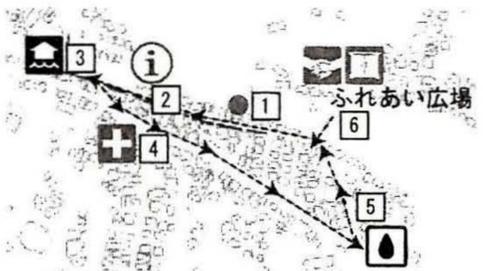


図5：VuTO体験ワークショップ

道路上に設置し、そのポイントで移動型携帯情報端末の動画を再生する形式を採用した。また、VuTO体験とともに、道路沿いの消火器を探すという企画も行った。

5-3. VuTOの考察と課題

今回、VuTO体験をした方にアンケートをしていただいた。アンケート項目については表4に示す。

VuTO	楽しかったか?
	音と映像で防災情報を体験するという方法は重要であると感じたか?
	VuTOは地域の防災に対する意識の向上に貢献できると思うか?
	VuTOを通して何か新しい発見はできたか?
iPod	画面は見やすかったか?
	操作は難しかったか?
	iPod以外でVuTOと類似した体験サービスを知っているか?
	今回のまち歩きにiPodは適切であると思うか?

表4：アンケート項目

9割以上の方が防災意識の向上へつながったと評価している。また多くの方が「普段見逃している情報を再認識することができた」と回答し、防災情報を知る手段としての有効性があると言える。しかし、移動型携帯情報端末の使用に関しては文字の小ささが指摘され、今後の修正を考えていかなければならない。

6. まとめ

今回、紙媒体だけではなく、目にする光景や災害が発生した時の状況は文字や記号では表せない部分があると感じ、防災において大町が抱えている様々な問題をより多くの方々が認識するためには、五感に訴えるようなものが大切であると考えVuTOを行った。しかし、本来の目的であるコミュニティ形成には至ることができず、次期の活動ではよりそちらに焦点をおいた活動が望まれると考えている。

謝辞

「大町地区コミュニティマップ作成プロジェクト」にご協力、ご参加していただきました、鎌倉市大町地区自治連合会役員の方々、まちづくりサポーターの方々及び鎌倉市市民活動課の方々にはここに記して謝意を表します。